

キオビスズメダイの三重県からの初記録および和歌山県からの標本に基づく初記録

久保敦暉¹・津守優太²・淀 太我¹

Author & Article Info

- ¹三重大大学大学院生物資源学研究科（津市）
AK: atsukubo239@gmail.com
TY: tyodo@bio.mie-u.ac.jp (corresponding author)
- ²三重大大学生物資源学部（津市）
522144@m.mie-u.ac.jp

Received 02 January 2026

Revised 19 January 2026

Accepted 19 January 2026

Published 20 January 2026

DOI 10.34583/ichthy.63.0_25

Atsuki Kubo, Yuta Tsumori and Taiga Yodo. 2026. First specimen-based records of *Stegastes albifasciatus* (Pomacentridae) from Mie and Wakayama prefectures. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 63: 25–28.

Abstract

A single specimen of *Stegastes albifasciatus* (Schlegel and Müller, 1840) (Pomacentridae) was collected from Mie Prefecture, Japan in December 2023. Subsequently, an another single specimen of the same species was collected from Wakayama Prefecture, Japan in October 2024. Both specimens represent the first specimen-based records for their respective prefectures, and the specimen collected from Mie Prefecture constitutes the first specimen-based record of the species for Honshu.

キオビスズメダイ *Stegastes albifasciatus* (Schlegel and Müller, 1840) は、インド・太平洋に分布するスズメダイ科魚類であり（加藤, 2011），日本国内においては、八丈島，和歌山県串本，南西諸島，南大東島から記録されている（荒賀, 1997；加藤, 2011；青沼ほか, 2013；本村, 2025）。

2023年12月に三重県尾鷲市九鬼町の岸壁においてキオビスズメダイとみられる幼魚が1個体採集された。また、2024年10月に和歌山県東牟婁郡串本町の海岸においてもキオビスズメダイとみられる幼魚が1個体採集された。これらの標本は三重県における初記録、ならびに和歌山県における標本に基づく初記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

採集調査は2023年12月13日に三重県尾鷲市九鬼町の九鬼漁港周辺で、2024年10月19日に和歌山県東牟婁郡

串本町の海岸で夜間に手網を用いて行われた。三重県産の個体は、エアレーションを施して活かした状態で研究室に運搬し、生時の体色等を観察および記録した。記録後、当該個体に寒冷麻醉を施し、展鰓して生鮮状態で写真を撮影した。なお和歌山県産の個体は採集後6日間飼育し、死亡した際に生鮮時の体色等を観察および記録した。その後、両標本の右腹鰓の一部を切除してDNA分析用試料とともに、全身を定法に則ってホルマリン水溶液で固定後、エタノール水溶液に置換して保存した。

計数・計測は Allen and Erdmann (2009) に従ったが、鰓耙数の計数には鰓蓋部の切開が必要で、かつキオビスズメダイの同定に鰓耙数は必要無いため、計数しなかった。計測には、デジタルノギスを用いて0.1 mm単位で行った。本稿に用いた標本はすべて三重大大学大学院生物資源学研究科魚類標本 (FRLM) に登録・収蔵されている。

***Stegastes albifasciatus* (Schlegel and Müller, 1840)**

キオビスズメダイ

(Fig. 1; Table 1)

標本 2個体。FRLM 66420, 34.7 mm SL, 三重県尾鷲市九鬼, 2023年12月13日, 久保敦暉採集；FRLM 66421, 23.3 mm SL, 和歌山県東牟婁郡串本町, 2024年10月19日, 津守優太採集。

記載 両標本の計数形質および計測形質の値と、体各部の標準体長に対する割合を Table 1 に示す。体は側扁し、橢円形である。体高は、背鰓第1–2棘間直下で最大になり、体長の43.3–47.3%と高い。口は端位であり、口裂はわずかに斜行し、主上顎骨後端はわずかに眼窓前縁直下を越える。眼下幅は眼径より小さく、眼窓後半の内側に乳頭突起はない。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状であるが、主鰓蓋骨、間鰓蓋骨、下鰓蓋骨後縁は円滑である。両顎歯は1列である。背鰓軟条部と臀鰓軟条部の後縁は丸みを帯びる。尾鰓は二叉し、両葉の先端はやや丸みを帯び、尾鰓上下端の前尾鰓条は棘状ではない。



Fig. 1. Fresh specimens of *Stegastes albifasciatus* from Mie (A) and Wakayama (B) prefectures, Japan. A: FRLM 66420, 34.7 mm SL; B: FRLM 66421, 23.3 mm SL.

色彩 生鮮時の色彩 (Fig.1) — 体色は概ね暗い灰色で背鰭基底後端に黒色斑があり、その前下方には黄色味を帯びた斑紋がある。胸鰭と尾鰭は灰色。背鰭は暗い灰色で、FRLM 66420 (九鬼) では第 2-3 棘間鰭膜上、第 4-5 棘間鰭膜上、第 5-6 棘間鰭膜上、第 6-7 棘間鰭膜上に小さな青

色斑が存在し、FRLM 66421 (串本) では背鰭第 2-3 棘間鰭膜上および第 5 棘上に小さな青色斑が存在する。腹鰭および臀鰭は暗い灰色で、前縁部は青みを帯びた白色を呈する。

同定 本標本は主鰓蓋骨、間鰓蓋骨、下鰓蓋骨後縁が

円滑で、前鰓蓋骨後縁が鋸歯状であること、眼窓後半の内側に乳頭突起がないこと、尾鰭上下端の前尾鰭条が棘状ではないこと、縦列鱗数が26、両顎歯が1列であること、背鰭棘数が12、眼下幅が眼径より小さいこと、背鰭棘条部中央下での側線上方横列鱗数が2.5、背鰭基底後端に黒色斑があり、同黒色斑の前縁に黄色斑があることが、青沼ほか（2013）や西山（2014）が示したキオビスズメダイの特徴と一致したため、本種に同定された。

分布 インド・太平洋に分布する（加藤、2011）。日本国内においては、八丈島、三重県九鬼、和歌山県串本、トカラ列島（口之島）、奄美群島（加計呂麻島、沖永良部島、喜界島、与論島）、沖縄諸島（沖縄島、伊江島、渡嘉敷島）、南大東島、宮古諸島（宮古島）、八重山諸島（石垣島、西表島、竹富島）から記録されている（荒賀、1997；吉郷、2004；Senou et al., 2006, 2007；参木・小寺、2008；渡井ほか、2009；加藤、2011；青沼ほか、2013；西山、2014；Nakae et

al., 2018；岩坪、2018；Motomura and Uehara, 2020；Fujiwara and Motomura, 2020；本村、2025；本研究）。なお、八丈島、本研究以前の和歌山県、宮古島、竹富島における記録は目視観察に基づく記録である。これまでの記録の詳細はTable 2に記した。

備考 「分布」の項に示したとおり、本種の標本に基づく記録の北限はトカラ列島の口之島であり、本種の目視観察に基づく記録の北限は和歌山県串本である（Table 2）。これより、三重県九鬼産のFRLM 66420は本種の北限を更新し、三重県および本州における標本に基づく初記録であり、和歌山県串本産のFRLM 66421は和歌山県における標本に基づく初記録となる。これらの標本が採集された串本沿岸域や熊野灘沿岸域は黒潮の影響を強く受ける地域であり、黒潮によって卵や仔魚が南方より運搬されてきたと考えられる熱帯性魚種の出現例が多く知られている（日比野・長野、2020；大西、2024；笹木ほか、2025；吉田・大西、2025）。また、本研究で採集されたこれらの標本はその体長からいざれも未成魚と考えられ、これまでの分布を考慮すると、今回得られた標本も黒潮により南方から偶発的に輸送され、成長した個体と考えられる。

黒潮流沿岸域では黒潮流路の変化が魚類を含む海洋生態系に影響を及ぼすと考えられている（美山、2023；リーフチェック串本、2025）。例えば、三重県沿岸におけるクラカケエビス *Sargocentron caudimaculatum* (Rüppell, 1838) の出現記録は過去2回とも黒潮大蛇行の長期継続期間中であったことが報告されている（久保ほか、2024）。観測史上最長となる7年9ヶ月に及んだ黒潮大蛇行は2025年4

Table 1. Counts and measurements of *Stegastes albifasciatus*.

Sample locality	FRLM 66420 Kuki, Mie Pref.	FRLM 66421 Kushimoto, Wakayama Pref.
Standard length (SL; mm)	34.7	23.3
Counts		
Dorsal-fin rays	XII, 16	XII, 15
Anal-fin rays	II, 12	II, 12
Pectoral-fin rays	20	20
Principal caudal-fin rays	15	15
Spiniform caudal-fin rays	4	4
Number of pored scales in lateral line	18+8	18+8
Measurements (% of SL)		
Body depth	47.3	43.3
Body width	18.4	18.5
Head length	34.6	34.8
Snout length	9.8	9.0
Orbit diameter	11.5	9.9
Interorbital width	15.0	10.3
Depth of caudal peduncle	14.7	15.0
Length of caudal peduncle	11.2	9.0
Upper-jaw length	8.9	9.0
Predorsal distance	45.2	45.1
Preanal distance	65.7	72.5
Prepelvic distance	39.5	45.1
Length of dorsal-fin base	54.8	51.9
Length of anal-fin base	21.3	18.5
Pectoral-fin length	28.0	23.6
Pelvic-fin length	33.1	27.5
Pelvic-fin spine length	19.3	15.5
1st dorsal spine	9.8	9.9
2nd dorsal spine	13.3	12.4
7th dorsal spine	19.3	18.9
Last dorsal spine	16.7	13.3
Longest soft dorsal ray	21.9	20.2
1st anal spine	6.3	6.0
2nd anal spine	17.6	14.2
Longest soft anal ray	26.2	21.0
Caudal-fin length	33.1	31.3
Caudal concavity	15.9	11.2

Table 2. Recorded localities and their references for *Stegastes albifasciatus*.

Locality	Reference
Kuki, Mie Pref.	This study
Kushimoto, Wakayama Pref.	This study
Hachijo-jima island*	KPM-NR 75307
Kuchino-shima island	KAUM-I. 116890
Kikai-jima island	Fujiwara and Motomura (2020)
Kakeroma-jima island	Nakae et al. (2018)
Okinoerabu-jima island	Motomura and Uehara (2020)
Yoron-jima island	Nishiyama (2014)
Okinawa-jima island	KAUM-I. 28479, 28801, URM-P 44158
Ie-jima island	Senou et al. (2006)
Tokashiki-jima island	Watai et al. (2009)
Minamidaito-jima island	Yoshigou (2004)
Miyako-jima island*	Senou et al. (2007)
Ishigaki-jima island	NSMT-P 49557
Taketomi-jima island*	KPM-NR 144162
Iriomote-jima island	NSMT-P 80810, 80813, 80814, 80817-80820, URM-P 17608, 35984

*Recorded by visual observation. KPM: Kanagawa Prefectural Museum of Natural History, Kanagawa; KAUM: Kagoshima University Museum, Kagoshima; URM: Okinawa Churashima Foundation, Okinawa; NSMT: Department of Zoology, National Museum of Nature and Science, Ibaraki.

月に終息した（気象庁, 2025）。海洋生態系に大きな影響を与える黒潮の流路が変わった後の、当該海域の生物相の変化を捉えるためにも、本種を含む熱帯性魚類の出現を継続的・網羅的な調査を通じて注視していくことが強く望まれる。

謝 辞

本報告を行うにあたり、三重大学大学院生物資源学研究科名誉教授の木村清志博士には標本の登録において便宜を図っていただきいた。また、当時三重大学大学院生物資源学研究科の和田昇己氏および三重大学大学院生物資源学研究科の堀江慧悟氏、三重大学生物資源学部の古田時三氏、江頭蓮一氏、丸山凧斗氏には標本の採集および個体の飼育においてご協力いただきいた。鹿児島大学総合研究博物館の本村浩之博士、静岡市の武藤 涼氏には種の同定の際に貴重なご助言をいただきいた。また、摂南大学農学部応用生物科学科講師の國島大河博士、和歌山県立自然博物館の揖善継氏、京都大学大学院理学研究科の浜橋 丈氏には文献収集にご協力いただきいた。また、Ichthy 編集委員の藤原恭司氏および匿名の査読者には、査読を通じて有益なご助言をいただきいた。ここに記し、厚く御礼申し上げる。

引用文献

- Allen, G. R. and M. V. Erdmann. 2009. Two new species of damselfishes (Pomacentridae: *Chromis*) from Indonesia. *Aqua, International Journal of Ichthyology*, 15: 121–134.
- 青沼佳方・吉野哲夫・柳下直己. 2013. スズメダイ科, pp. 1029–1066, 2033–2036. 中坊徹次（編）日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 荒賀忠一. 1997. キオビスズメダイ, p. 462. 岡村 収・尼岡邦夫（編）山溪カラーノ鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Kikai Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 259 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 14: 1–73.
- 岩坪洸樹. 2018. スズメダイ科, pp. 216–246. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典（編）奄美群島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 加藤昌一. 2011. ネイチャーウォッキングガイドブック スズメダイ～ひと目で特徴がわかる図解付き～. 誠文堂新光社, 東京. 240 pp.
- 気象庁. 2025. 黒潮大蛇行の終息について～過去最長の7年9か月継続～. [URL](#) (6 Dec. 2025)
- 久保敦暉・和田昇己・古田時三・淀 太我. 2024. 45年振りに確認された三重県2例目のクラカケエビス. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 44: 37–42.
- 日比野友亮・長野 淳. 2020. 三重県熊野灘で水揚げされた熱帯・亜熱帯性魚類. *Niche Life*, 7: 28–33.
- 参木正之・小寺昌彦. 2008. 串本で採集されたクロソラスズメダイ属魚類. *マリンパビリオン*, 37: 33.
- 美山 透. 2023. 変わりゆく海洋環境：黒潮大蛇行と温暖化. *消防防災の科学*, 153: 40–44.
- 本村浩之. 2025. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. *Online ver. 24. URL* (6 Dec. 2025)
- Motomura, H. and K. Uehara. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Okinoerabu Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 361 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 12: 1–125.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science*, Tokyo, 52: 205–361.
- 西山 肇. 2014. キオビスズメダイ, p. 371. 本村浩之・松浦啓一（編）奄美群島最南端の島—与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 大西 遼. 2024. 串本海中公園センターで記録された魚類. *マリンパビリオン*, 15: 1–24.
- リーフチェック串本. 2025. 「地球温暖化は検出できたか」リーフチェック串本の25年間（2000～2024年）の調査記録. *日本サンゴ礁学会誌*, 27: 1–17.
- 笹木大地・武藤 涼・中村潤平・日比野友亮・木村清志. 2025. 三重県におけるハタ科魚類相. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 55: 30–48.
- Senou, H., Y. Kobayashi and N. Kobayashi. 2007. Coastal fishes of the Miyako Group, the Ryukyu Islands, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 36: 47–74.
- Senou, H., H. Kodato, T. Nomura and K. Yunokawa. 2006. Coastal fishes of the Ie-jima Island, the Ryukyu Islands, Okinawa, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 35: 67–92.
- 渡井幹雄・宮崎佑介・村瀬敦宣・瀬能 宏. 2009. 慶良間諸島渡嘉敷島渡嘉志久湾の魚類相. 神奈川県立博物館研究報告(自然科学), 38: 119–132.
- 吉田奈央・大西 遼. 2025. 和歌山県から得られた南方性テンジクダイ科魚類2種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 55: 63–68.
- 吉郷英範. 2004. 南大東島で採集されたタイドプールと浅い潮下帯の魚類. *比和科学博物館研究報告*, 43: 1–51.